

授業科目名 (英語表記)	監査論 (Auditing)		
単位数	1	授業形態	講義
担当教員	藤原 靖也		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 10月8日(金) 18:00~21:00	第3回 10月22日(金) 18:00~21:00	
	第2回 10月15日(金) 18:00~21:00	第4回 10月29日(金) 18:00~21:00	
【授業の概要・ねらい】			
<p>外部監査の大きな目的は、経営者の作成した財務諸表や内部統制報告書の適正性を意見として表明することにあるとされている。しかしながら、そのような外部監査を受けたとしても、実際には経済社会を揺るがすような会計不正事件が後を絶たない。このことを背景に、いま監査のあり方が問われ続け、監査制度も劇的に変化している。なぜ会計不正が絶えないのか、どのような制度にすれば監査制度を改善することができるのかを検討するためには、監査論に関する深い理解が欠かせない。そこで本講義では、例えば適正性とは何か、監査人に課される責務とは何か、どのように監査を行うことが適当であり、どのように意見を表明すればよいのか等を理解・検討することを通じ、監査人の行う監査のあり方に関して議論することができるようになることを目的とする。</p>			
【授業計画】			
<p>第1回 監査制度の概要と課題 現状の監査制度について概観したうえで、課題・論点について検討を行う。</p> <p>第2回 リスク・アプローチ 現在の会計監査における核となるリスク・アプローチについて検討を加える。</p> <p>第3回 監査戦略の策定と監査の実施 監査戦略の策定・実施について概要を解説したのち、グループ討論を交えた監査戦略立案に関するワークを行う。</p> <p>第4回 検討結果の発表と監査の課題 前回の討論を踏まえた検討結果を発表するとともに会計監査に内在する課題・論点を提示する。</p>			
【到達目標】			
<p>修士課程レベルの監査に関する専門的知識を修得するとともに、会計監査や内部統制監査が孕む課題を論じることができるようになることを目的とする。</p>			
【成績評価の方法・基準】			
<p>(1)講義への貢献度・プレゼンテーションファイルの内容(30%)、(2)各回のレポート評価(40%)および(3)最終レポート課題(30%)により評価する。うち、(1)についてはプレゼンテーションファイルのレベルに合わせ評価する。(2)については各回に提出されたレポート課題の総点数(各回100点満点)を加重平均し、総点数の40%になるよう評価する。(3)については提出されたレポートのレベルに応じ評価する。なお、当該レポート課題の提出は単位の認定要件であり、最終レポート課題を指定した期日までに提出しない場合、単位は認定しない。</p>			
【教科書】			
<p>適宜紹介する。</p>			
【参考書・参考文献】			
<p>適宜紹介する。</p>			
【履修上の注意・メッセージ】			
<p>事前・事後課題の提出と学術的な批評が講義の中心となることに留意すること。</p>			
【履修する上で必要な事項】			
<p>すでに監査論の基礎知識を有していることを前提として講義を行うため、知識が不足している者は基本書を用い補っておくこと。</p>			
【授業時間外学修についての指示】			
<p>事前準備・事前／事後課題をしっかりとこなすこと。</p>			
【履修を推奨する関連科目】			
<p>会計学に関する専門科目および統計学に係る専門科目を履修すると理解が深まるであろう。</p>			